

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	河川・水路整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	整備時期は未定であるが、整備の目安がついた段階で、整備方針等の検討を行う。
②①に基づく取組み結果	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討は行えなかった。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	①主要な水路 ②その他の水路	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	河川水路の整備を行うことにより、施設能力を確保し、各地で発生している浸水被害の軽減を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)紙敷川改修事業負担金(事業主体:松戸市) (2)金山落水路整備事業に伴う用地購入						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	主要な水路の暫定改修実施率	6.50	6.50	6.50	%	業務取得
	ii	主要な水路の50mm/hr改修実施率	2.60	2.60	2.60	%	業務取得
	iii	浸水面積(河川水路)	31.9	31.9	31.9	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	2,714	11,893	金額(千円)		内容	10,903	
	国支出金(千円)		6,198	紙敷川改修事業負担金			
	県支出金(千円)		4,222	金山水路落測量委託			
	市債その他(千円)		1,408	金山落水路用地購入			
	一般財源(千円)	2,714	11,893			10,903	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	整備の目安がついていないため、整備方針等の検討に取り組めない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、効果的な手法の検討及び将来の整備に後戻りの無いよう配慮が必要のため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	・紙敷川改修負担金 ・金山落水路用地	平成25年度事業費の状況(単位:千円)					
		計画事業費	予算額		決算額		
②計画に対する事業実績	・紙敷川改修負担金支払い済 ・金山落水路用地購入、測量完了	9,874	14,332	当初	9,874	H24からの繰越	4,222
				H24→25繰越	4,458		
③達成状況	完了			補正	0	現年分	7,671
④未完了・非着手の理由				流用・充当	0		
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		0	

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	準用河川整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成26年度に取組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	準用河川	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減 隣接家屋等の安全性確保
②事務事業の概要	河川の整備を行うことにより、施設能力を確保し、各地で発生している浸水被害の軽減を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)準用河川二和川護岸改修第27期工事 (L=215.2m 護岸改修工) (2)準用河川二和川河川整備基本計画の策定						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	暫定改修実施率	15.58	16.40	18.61	%	業務取得
	ii	50mm/hr改修実施率	11.42	11.42	11.42	%	業務取得
	iii	浸水面積(1級河川、準用河川)	82.0	81.5	81.5	ha	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	17,675	49,258	金額(千円)	内容			105,347
国支出金(千円)			32,164	二和川護岸改修第27期工事			
県支出金(千円)			9,200	二和川護岸改修第28期工事(前金)			
市債その他(千円)		32,300	6,999	二和川整備基本計画作成委託			42,200
一般財源(千円)	17,675	16,958					63,147

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	河川改修は下流から行うのが原則であるため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所を選定し、将来の整備に後戻り無いようにしなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、効果的な手法の検討及び将来の整備に後戻りの無いよう配慮が必要のため。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	二和川護岸改修工事	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	H24からの繰り越してある215.2mの護岸改修が完了	30,380	71,271	当初	30,380	49,258	H24からの繰越	39,163
				H24⇒25繰越	39,239		現年分	10,095
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	H25着手分がH26に繰り越したため。			流用・充当	1,652			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		16,452		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	地域排水整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	地域排水施設	意図(対象をどうするのか)	浸水被害の軽減
②事務事業の概要	河川、水路までの排水施設等の整備を行うことにより、各地域で発生している浸水被害の軽減を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)初富古桜地区地域排水整備工事(L=65.0m)、(2)東初富3丁目地区地域排水整備工事(L=25.3m)、(3)鎌ヶ谷5丁目地区地域排水整備工事(貯留量86.0m3)、(4)鎌ヶ谷8丁目地区地域排水整備工事(貯留量 249.0m3)						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	整備工事完了・着手箇所数	15	16	18	箇所	業務取得
	ii	浸水面積(地域排水)	11.2	11.1	11.1	ha	業務取得
	iii	浸透柵設置基数	6,174	6,263	6,411	基	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳		平成26年度予算		
事業費(千円)	14,131	42,499	金額(千円)	内容	29,908		
国支出金(千円)			20,093	鎌ヶ谷8丁目整備工事			
県支出金(千円)			6,913	鎌ヶ谷5丁目整備工事			
市債その他(千円)		28,100	5,798	初富古桜地区対策工事			
一般財源(千円)	14,131	14,399	4,736	東初富3丁目整備工事	29,908		

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。				
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価 6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い	
③上記評価の理由	将来形を見据えた暫定的な整備を行うしかない現状では、効果的な手法の検討及び将来の整備に後戻りの無いよう配慮が必要である。				

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	浸透柵モニター、鎌ヶ谷2丁目地区設計、初富古桜地区工事、丸山地区排水用地整備工事、軽井沢落山地区排水整備工事、東初富3丁目地区排水整備工事、鎌ヶ谷5・8丁目地区排水整備工事	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	浸透柵モニター、初富古桜地区工事、軽井沢整備工事を実施・完了した。	90,072	88,086	当初	40,072	42,528	H24からの繰越	1,628
				H24⇒25繰越	1,627		現年分	40,900
③達成状況	未完了			補正	50,000			
④未完了・非着手の理由	鎌ヶ谷2丁目地区設計がH26に繰越のため、丸山地区整備工事の入札が不調に終わったため。			流用・充当	-3,613			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		10,637		

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	雨水貯留池整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	3	○
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川整備課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	鎗田 淳			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	浸水被害の軽減のため、整備は現時点で可能な最も効果のある箇所の選定を行う。
②①に基づく取り組み結果	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある箇所について選定した。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	雨水貯留池	意図(対象をどうするのか)	河川の流量の調整を行う。 雨水の流出を抑制する。
②事務事業の概要	貯留池整備工事等を行うことにより、河川からの溢水による浸水被害の軽減を図る。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	急激な都市化の進展により、雨水の流出量が増加し、河川の施設能力を超えるようになった。今後下流の整備が進むと、市域の河川施設の将来形での整備が可能となる。依然として浸水被害はあり、苦情や要望が多い。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	(1)南初富5丁目雨水貯留池用地購入(A=594㎡) (2)南初富5丁目雨水貯留池に伴う物件補償 (3)南初富5丁目貯留池整備工事着手(工期 H27.1.30まで)						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	河川調節池の暫定整備率	85.71	85.71	85.71	%	業務取得
	ii	河川調節池の整備率	57.14	57.14	57.14	%	業務取得
	iii	貯留量	37,480	37,480	37,480	m3	業務取得
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	63,498	68,339	金額(千円)	内容		163,770	
国支出金(千円)			40,000	南初富5丁目貯留池整備工事(継続費)			
県支出金(千円)			14,444	南初富5丁目貯留池用地購入			
市債その他(千円)	45,800	50,000	12,234	南初富5丁目雨水貯留池に伴う物件補償		152,100	
一般財源(千円)	17,698	18,339				11,670	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	浸水被害の軽減を図るため、道路冠水や浸水被害等のデータを基に予算の範囲内で整備可能かつ効果のある場所を選定しなければならない。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	7拡充
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	浸水被害の軽減を図るには、下流の整備が進んでいない現状では、貯留池を整備することが最善策と考えられるため、より一層の整備を進める。					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	南初富5丁目貯留池(事前調査・工事)	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	家屋等事前調査及び事前井戸水水質調査を実施。工事着手済み(工期H27.1.30まで)。	41,160	98,690	当初	0	68,508	H24からの繰越	26,678
				H24⇒25繰越	56,829		現年分	41,830
③達成状況	完了			補正	41,160			
④未完了・非着手の理由				流用・充当	701			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)	0			

平成26年度 鎌ヶ谷市事務事業評価表(事後)(標準評価表)

事務事業名	流域環境整備事業	会計	款	項	目	多額経費
		一般	8	3	2	〇
政策	22快適な暮らしの環境をつくります	担当課室	道路河川管理課			
施策	223うるおいある河川・水路の整備	担当課室長	小高仁志			

I 改革・改善内容(=事務事業をより良く実施するための方策)

①前回の評価で掲げた内容	異常気象により局所的な大雨が多くなることが予想されるため、さらに河川・水路の整備や維持管理を実施する。	③平成26年度に取り組む改革・改善内容	現状施設の機能維持及び転落による事故防止のための柵の設置を行う。
②①に基づく取組み結果	パトロールや住民要望により、河川・水路の除草、清掃、補修を行い現状施設の機能維持に努めた。		

II 事務事業の目的・概要

①目的	対象	河川、水路、調整池	意図(対象をどうするのか)	施設の機能維持
②事務事業の概要	河川・水路の適正な維持管理を行うため、補修・清掃などを行う。			
③環境分析(事業開始からの状況変化や今後の見込み・市民意向など)	施設の老朽化が進んでおり、大規模な修繕とともに、施設を長持ちさせるための対策が見込まれる。			

III 事務事業の成果やコストの状況

①平成25年度の事業の成果	主に4つの業務を行うことにより、流水機能の保持、安全性の確保、悪臭防止などの環境の保全、水害の防止などの成果を得た。						
②成果を表す指標	指標名称		平成23年度	平成24年度	平成25年度	単位	算定根拠
	i	河川・水路に対する満足度	11.1	11.1	13.8	%	市民意識調査
	ii	河川・水路除草面積	50,164	50,164	50,164	m ²	業務取得
	iii						
③事務事業のコスト	平成24年度決算	平成25年度決算	平成25年度決算(事業費)の主な内訳			平成26年度予算	
事業費(千円)	24,857	35,729	金額(千円)	内容		64,324	
	国支出金(千円)		20,357	防護柵設置等			
	県支出金(千円)		2,600	スクリーン清掃委託			
	市債その他(千円)		7,732	河川管理委託			
	一般財源(千円)	24,857	35,729	3,928	水路河川・水路清掃等	64,324	

IV 評価・検討

①課題(目的に対する現状など)	施設の老朽化に伴う大規模な修繕や長持ちさせるための対策。					
②評価	i 市関与の妥当性	3高い	iii 公平性	3高い	v 総合評価	6精査・検証
	ii 有効性	3高い	iv 効率性	3高い		
③上記評価の理由	法定管理者の責務として機能維持に努めることが必要なため					

V 多額の経費を要する事業等の「実施計画」における達成状況

①平成25年度の計画	排水施設自動通報装置運営 河川水路の維持工事等	平成25年度事業費の状況(単位:千円)						
		計画事業費	予算額		決算額			
②計画に対する事業実績	河川・水路の維持工事	50,476	55,474	当初	50,476	35,730	H24からの繰越	0
				H24⇒25繰越	0		現年分	35,730
③達成状況	未完了			補正	0			
④未完了・非着手の理由	入札不調			流用・充当	4,998			
				平成26年度への繰越額(単位:千円)		19,600		